

「今後の国際宇宙探査で行う科学の検討サイクル構築」に向けたタスクフォース報告

○竝木 則行¹, 石上 玄也², 稲富 裕光³, 小林 泰三⁴, 桜井 誠人³, 寺田 直樹⁵,
宮本 英昭⁶, 山岸 明彦⁷, 山田 亨³

¹国立天文台, ²慶應義塾大学, ³宇宙航空研究開発機構, ⁴立命館大学, ⁵東北大学, ⁶東京大学,
⁷東京薬科大学

責任著者：竝木 則行 nori.namiki@nao.ac.jp

国際宇宙探査センターと学術コミュニティが国際宇宙探査のサイエンスロードマップを共有して、共通のゴールを目指すことを目的として、宇宙科学研究所 国際宇宙探査専門委員会は「今後の国際宇宙探査で行う科学の検討サイクル構築」に向けたタスクフォースを設置した。TF では科学の検討サイクルを構築するための提言を行い、未解決の課題を整理した。この提言について報告を行う。

サイクルを回す上で重要なポイントは (a) サイクル中の情報伝達, (b) 学術コミュニティの体制, (c) 実行計画策定における優先順位の考え方, である。サイクルを円滑に回し、かつ成長させるために、学術がリードして宇宙開発のためのコンソーシアム/協議会を立ち上げることを提言する。その役割は、

- (1) JAXA, 学会, 産業界, 官の専門家会議, タスクフォース, 国際宇宙機関による Discipline Working Group, 宇宙科学研究所のワーキンググループ等のコアメンバが参加して、人財開発・情報交換のハブとなること,
- (2) JAXA が持つ情報だけでなく、学術コミュニティや産業界が独自に入手した情報を（あえて不確定な段階からでも）交換すること,
- (3) ロードマップについてのオープンな議論の場を提供し、各種提案を分類して大方針についてのコンセンサスを作ること（ただし、ロードマップの策定は少数の目利きがまとめる）,
- (4) 新規参入分野の育成のために、JAXA や政府が提供する研究開発費や人的支援について紹介するとともに、老舗分野の活動紹介を通して国際宇宙探査に参加する上で求められる体制や機能を伝授すること,

である。